

教育長様

研究コース	グループ研究Aコース	選定番号	8
校園コード(代表者校園の市費コード)		631369	

代表者 校園名: 大阪市立歌島小学校
 校園長名: 阪上 聡 樹 校印
 電話: 6473-7021 FAX: 6474-8319
 申請者 校園名: 大阪市立歌島小学校
 職名・名前: 校長 阪上 聡 樹
 電話: 6473-7021 FAX: 6474-8319
 代表者校園 事務職員名: 谷川 瑠子

平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Aコース	研究年数	新規研究(1年目)
2	研究テーマ	<p>着実に学力向上を図る授業力を極める —新たな歌島教育プライドを創造—</p> <p>◆ 研究内容のキーワード: 研究の内容をキーワードで記載してください。(【例】学力向上、体力向上等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力(思考力・判断力・表現力)の向上 ・授業力の向上(若手教員の授業力をアップと高度な授業スキルの習得) 			
3	研究目的	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が学ぶ喜びと、わかる楽しさを感じられる授業への挑戦 ・児童の学ぶ心に火を灯す(思考力・判断力・表現力を高める:学力の向上) ・教員の学ぶ心に火を灯す(授業力向上に一丸となって取り組む教員集団を形成する) 			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 算数科の授業観察後に指導助言をいただき、改善点を整理する。 (指導者は学力向上推進モデル校の指導員の辻本先生) * 5月21日授業観察及び算数科研究講義の開催: 13:50~17:00 * 研究授業(3年:6月26日・4年:7月3日)及び研究協議会の開催 13:50~17:00 指導者による授業改善のまとめと模擬授業の実施 * 7月30日14:00~17:00(全員参加) 授業改善、課題解決のための先進校(筑波大学附属小学校)へ派遣 * 8月に2名(第30回全国算数授業研究大会)、9月に3名(第4回日本授業UD学会全国大会)、10月に1名(第6回ICT活用授業づくり大会)等に派遣し、各研究授業で改善指導計画を作成して実施した。 改善指導案での研究授業の実施 * 6年:9月13日、1年:10月31日、5年:11月21日、2年:12月4日、それぞれ校内研究授業を実施し、研究協議会を開催して、改善効果と課題の抽出を行った。 当該事業の研究発表に向けた指導計画の改善事項のまとめ * 1月23日授業観察及び改善事項の指導助言をいただいた。8:30~12:30 課題解決のための先進校(筑波大学附属小学校ほか)への派遣 * 2月8日~9日に各日1名(筑波大学附属小学校初等教育研究会)に派遣 * 2月16日に3名(関西学院初等部学校公開)に派遣...次期の課題解決策を探るため 研究授業の開催(2月13日 13:30~17:00 参加者約30名) 全学年で算数科の公開授業を実施し、指導講評後に今後の課題を整理した。 			

	5 成果・課題	<p>申請書に記載した検証方法に基づいて取組を分析し、具体的に記載してください。</p> <p><成果> *児童の学ぶ心に火を灯す 1) 校内児童アンケート調査結果から成果を検証した。 ・「勉強はわかりますか」の問いに対する肯定的な回答率・・・91%（昨年度85%） ・「苦手な学習でも最後まで頑張っていますか」の問いに対する肯定的な回答率・・・92%（昨年度87%） 2) 校内保護者アンケート調査から成果を検証した。 ・「お子さんは学校の勉強がわかると言っていますか」の問いに対する肯定的な回答率・・・88%（昨年度87%） ・「お子さんは最後まで諦めずに学習する力を身に付けていますか」の問いに対する肯定的な回答率・・・84%（昨年度82%） まとめ：児童は、アンケート調査結果から勉強がわかると回答した回答率が昨年度よりも6ポイント上昇していることから、授業改善によって授業がわかりやすくなっている効果が発現されていると考えられる。また、保護者も学校の勉強が児童にとってわかりやすいと回答した方が88%おられることから、一定の改善効果があったと言える。</p> <p>*教員の学ぶ心に火を灯す 1) 平成30年度学力経年調査結果から検証した。</p> <table border="1" data-bbox="335 672 1133 851"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>学校平均</th> <th>大阪市平均</th> <th>標準化得点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3年</td> <td>78.4</td> <td>68.7</td> <td>112.4</td> </tr> <tr> <td>4年</td> <td>75.9</td> <td>67.7</td> <td>111.2</td> </tr> <tr> <td>5年</td> <td>53.4</td> <td>58.0</td> <td>93.8</td> </tr> <tr> <td>6年</td> <td>68.4</td> <td>69.5</td> <td>98.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>まとめ：3年と4年は、授業改善によって授業のわかりやすさや楽しさが感じ取られることから、今回の経年調査でも一定の効果がみられるが、5年は教科内容が難しくなる関係もあり、更なる改善が必要である。UDによる授業改善やタブレットを活用した授業の工夫など課題が残った。</p> <p>2) 教育委員の授業視察が行われたことを踏まえて *11月26日に森末教育委員と大竹教育委員が本校の授業及び学力向上への取組を視察に来られた。授業は3年と4年の算数科の授業を観察いただき、その後、協議会を開催した。授業観察では、特に3年の算数科の授業でアクティブラーニングによる授業に関心され、児童が授業の中で生き生きとして発言し、意見交換する様子に期待感を持っていただいた。今回の成果に挙げたのは、視察対象になったことで、教員たちは、自分たちの取組や授業改善が認められたとの思いを抱き、まさに1つの誇り（プライド）を持ったように感じた。テーマである「新たな歌島教育プライドを創造」の大きなきっかけとなると思っている。</p> <p><課題> 算数科の学力向上推進モデル事業校として、来年度は2年目を迎える。先の成果検証の中でも述べたように、中学年の正答率を高学年でも如何に維持できるかを追求していく必要があると考える。そこで、次のとおり課題を整理した。 1) UDの3本柱である視覚化、焦点化、共有化を図るための徹底した授業改善を考案する。（5つテクニック①ひきつける②むすびつける③方向づける④そろえる⑤実感させるの活用） 2) タブレットの積極的な活用などICTを活用した授業づくりに取り組む。 3) アクティブラーニングにより、数学的活動の充実を図る。</p>	学年	学校平均	大阪市平均	標準化得点	3年	78.4	68.7	112.4	4年	75.9	67.7	111.2	5年	53.4	58.0	93.8	6年	68.4	69.5	98.3
学年	学校平均	大阪市平均	標準化得点																			
3年	78.4	68.7	112.4																			
4年	75.9	67.7	111.2																			
5年	53.4	58.0	93.8																			
6年	68.4	69.5	98.3																			
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1" data-bbox="287 1948 1500 2038"> <tr> <td>日 程</td> <td>平成 31 年 2 月 13 日</td> <td>参加者数</td> <td>約 30 名</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td colspan="3">大阪市立歌島小学校</td> </tr> </table>	日 程	平成 31 年 2 月 13 日	参加者数	約 30 名	場 所	大阪市立歌島小学校														
日 程	平成 31 年 2 月 13 日	参加者数	約 30 名																			
場 所	大阪市立歌島小学校																					

※上記の内容について、原則としてフォントは10ポイント、A4判2ページ(両面印刷1枚)で作成し、平成31年2月25日(月)までに、大阪市教育センター「がんばる先生支援」担当まで提出してください。(研究資料等を添付)